

9 女性が職業を持つことについて

「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」と回答した人の割合が 43.5%と最も高く、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(32.0%)、「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」(7.6%)の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」及び「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と回答した人の割合は男性より女性の方が高く、「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」と回答した人の割合は女性より男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」と回答した人の割合は、40歳代が51.9%と他の年齢層と比べ最も高くなっている。

図9-1 女性が職業を持つことについて

【総数、性別、年齢別】

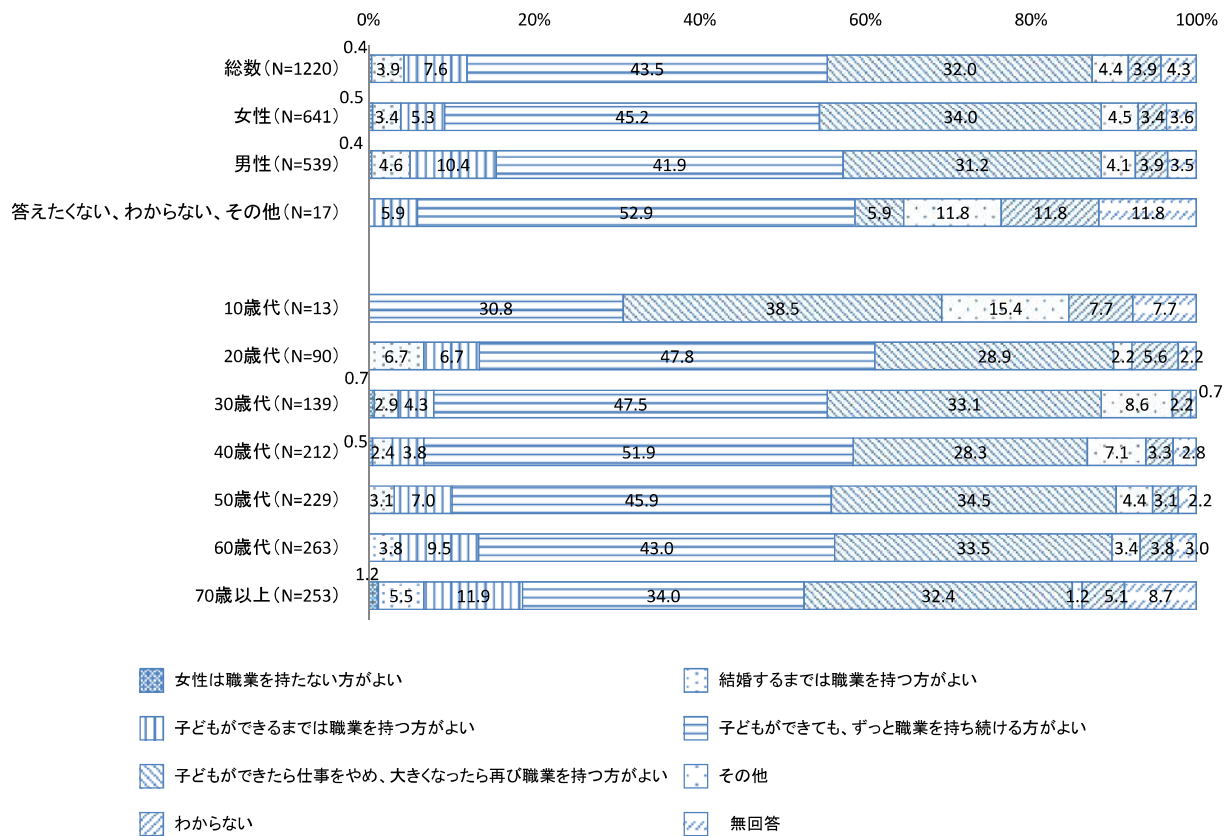


表9 女性が職業を持つことについて【総数、性別、年齢別】

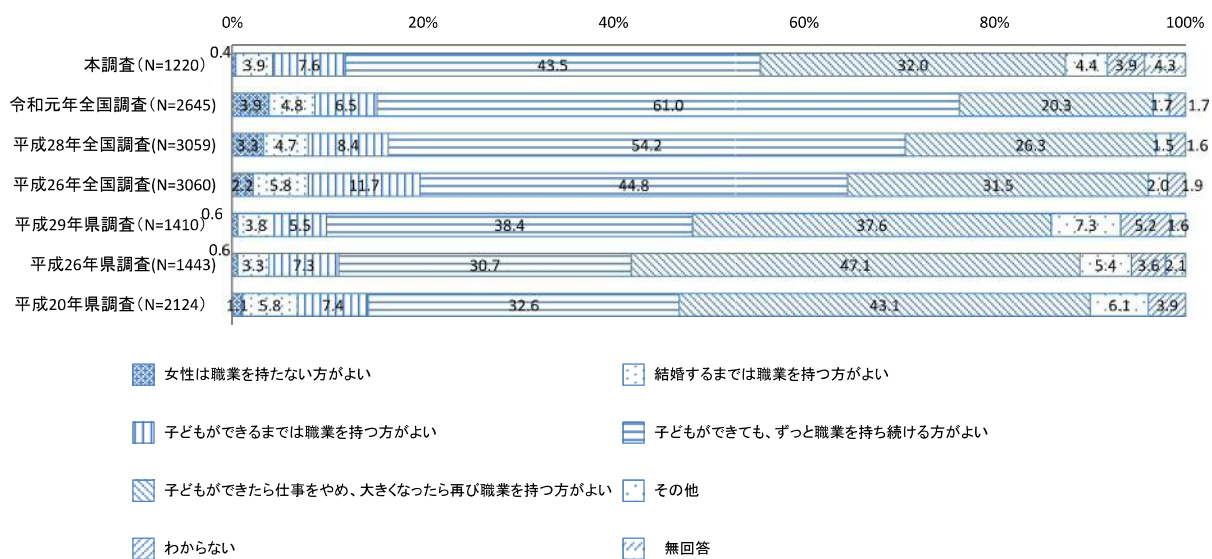
	サンプル数	女性が職業を持たない方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができればよい	子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい	子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	その他	わからない	無回答
総数	1220 100.0	5 0.4	48 3.9	93 7.6	531 43.5	390 32.0	54 4.4	47 3.9	52 4.3
性別									
女性	641 100.0	3 0.5	22 3.4	34 5.3	290 45.2	218 34.0	29 4.5	22 3.4	23 3.6
男性	539 100.0	2 0.4	25 4.6	56 10.4	226 41.9	168 31.2	22 4.1	21 3.9	19 3.5
答えたくない、わからない、その他	17 100.0	- -	- -	1 5.9	9 52.9	1 5.9	2 11.8	2 11.8	2 11.8
年齢別									
10歳代	13 100.0	- -	- -	- -	4 30.8	5 38.5	2 15.4	1 7.7	1 7.7
20歳代	90 100.0	- -	6 6.7	6 6.7	43 47.8	26 28.9	2 2.2	5 5.6	2 2.2
30歳代	139 100.0	1 0.7	4 2.9	6 4.3	66 47.5	46 33.1	12 8.6	3 2.2	1 0.7
40歳代	212 100.0	1 0.5	5 2.4	8 3.8	110 51.9	60 28.3	15 7.1	7 3.3	6 2.8
50歳代	229 100.0	- -	7 3.1	16 7.0	105 45.9	79 34.5	10 4.4	7 3.1	5 2.2
60歳代	263 100.0	- -	10 3.8	25 9.5	113 43.0	88 33.5	9 3.4	10 3.8	8 3.0
70歳以上	253 100.0	3 1.2	14 5.5	30 11.9	86 34.0	82 32.4	3 1.2	13 5.1	22 8.7

【他調査との比較】

平成29年県調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」と回答した人の割合は高くなっており、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と回答した人の割合は低くなっている。

令和元年全国調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」と回答した人の割合は低くなっており、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が高くなっている。

図9-2 女性が職業を持つことについて
【他調査との比較】



「理由について①」

「女性は職業を持たない方がよい」、「結婚するまでは職業を持つ方がよい」、「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」と回答した人に理由を尋ねたところ、「子どもは母親が家で面倒を見た方がよいと思うから」と回答した人の割合が57.5%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」(32.2%)、「女性は家庭を守るべきだと思うから」(31.5%)、「働き続けるのは大変そうだと思うから」(30.1%)の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」と回答した人の割合は男性(24.1%)より女性(42.4%)の方が高くなっている。一方で「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」と回答した人の割合は女性(10.2%)より男性(26.5%)の方が高くなっている。また「女性は家庭を守るべきだと思うから」、「子どもは母親が家で面倒を見た方がよいと思うから」と回答した人の割合も女性より男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、40歳代は「子どもは母親が家で面倒を見た方がよいと思うから」と回答した人の割合が78.6%と特に高くなっている。

図9-3 女性が職業を持つことについて(理由①)

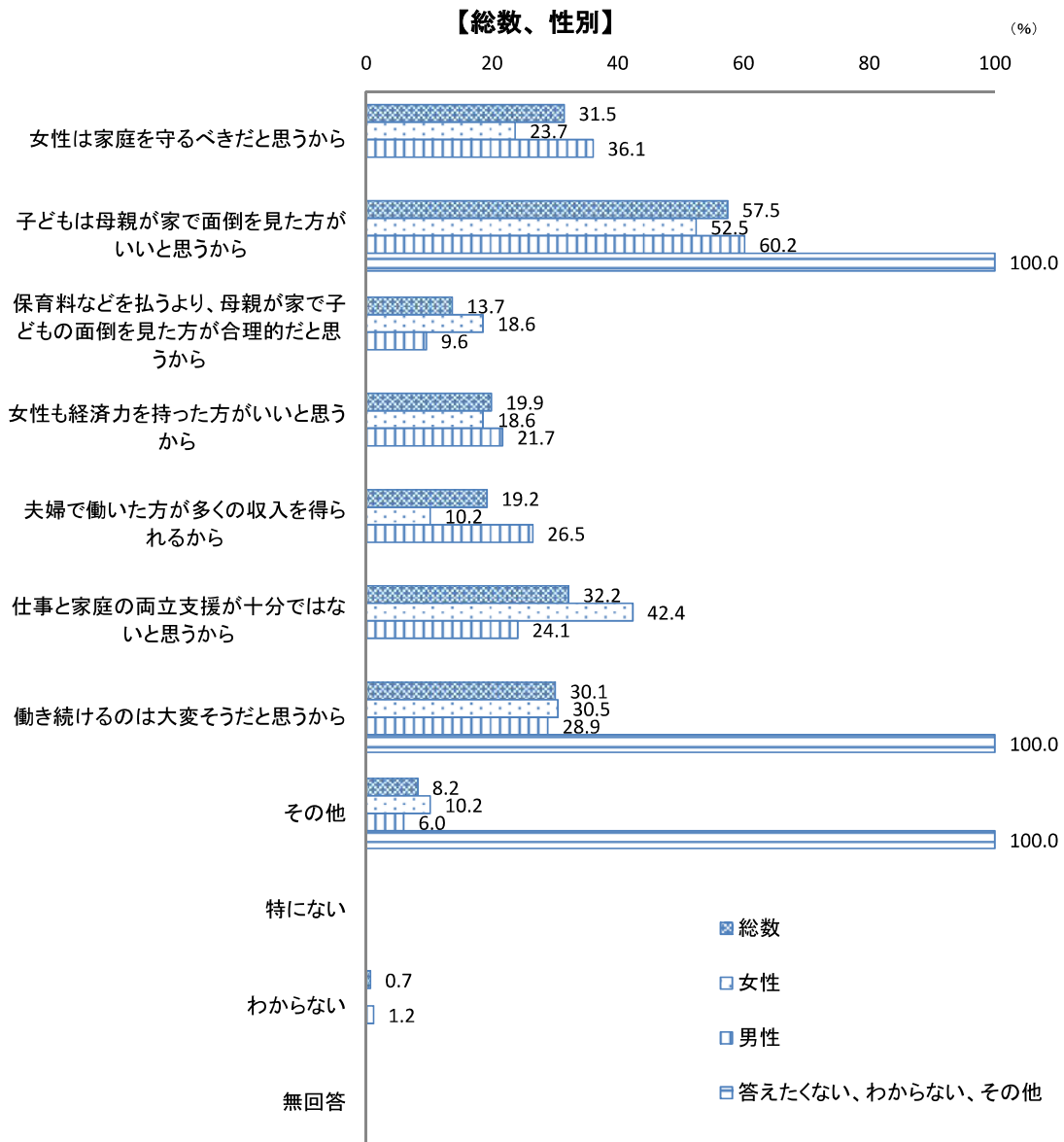
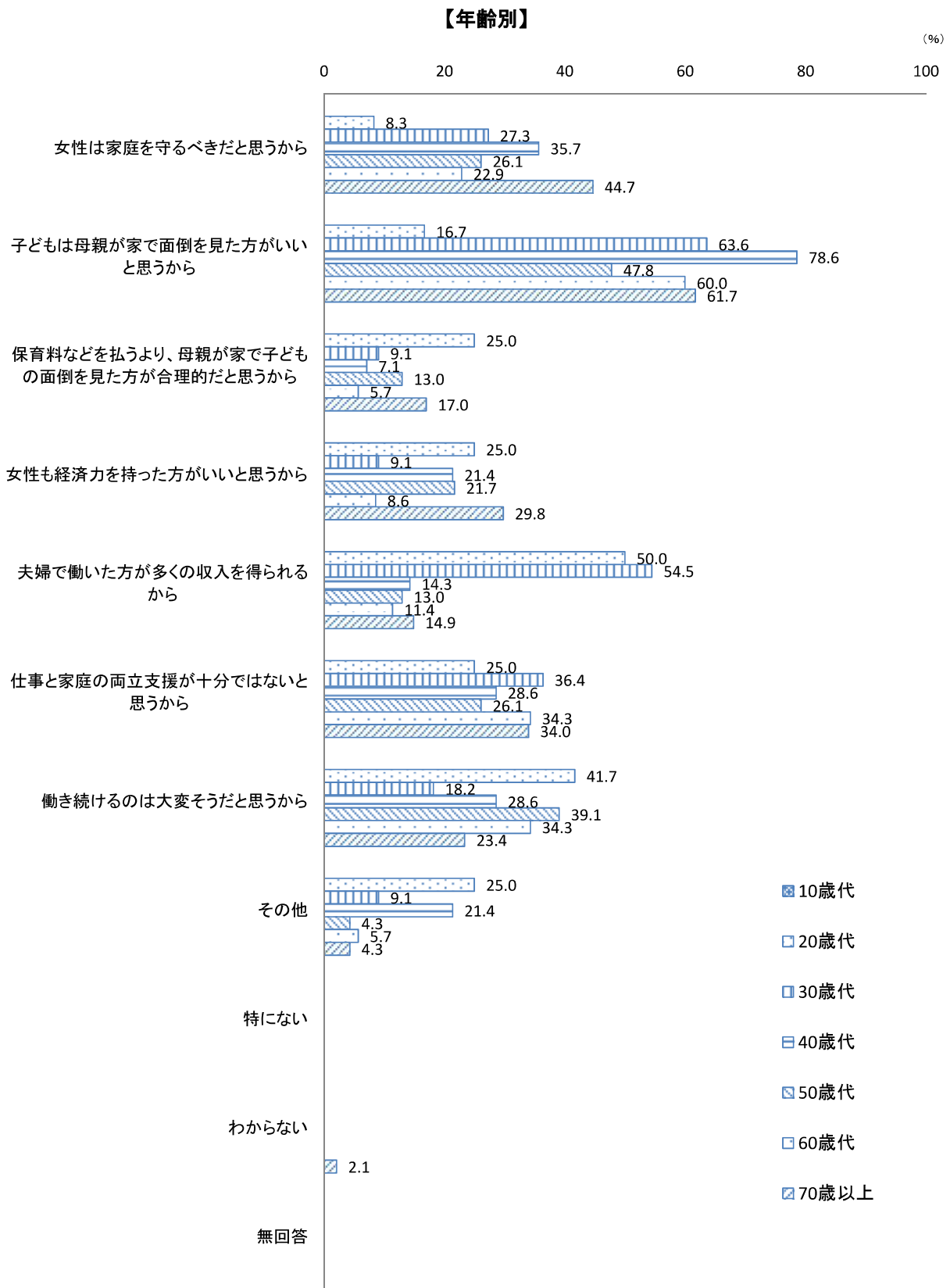


図9-4 女性が職業を持つことについて（理由①）



「理由について②」

「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と回答した人に理由を尋ねたところ、「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」と回答した人の割合が55.2%と最も高く、次いで「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」(40.8%)、「働くことを通じて自己実現が図れると思うから」(39.2%)の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いた方がよいと思うから」と回答した人の割合は女性(20.7%)より男性(31.5%)の方が高くなっている。一方で「働くことを通じて自己実現が図れると思うから」と回答した人の割合は男性(36.3%)より女性(42.3%)の方が高くなっている。

年齢別に見ると、30歳代は「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」と回答した人の割合が55.4%と特に高くなっている。

図9-5 女性が職業を持つことについて(理由②)

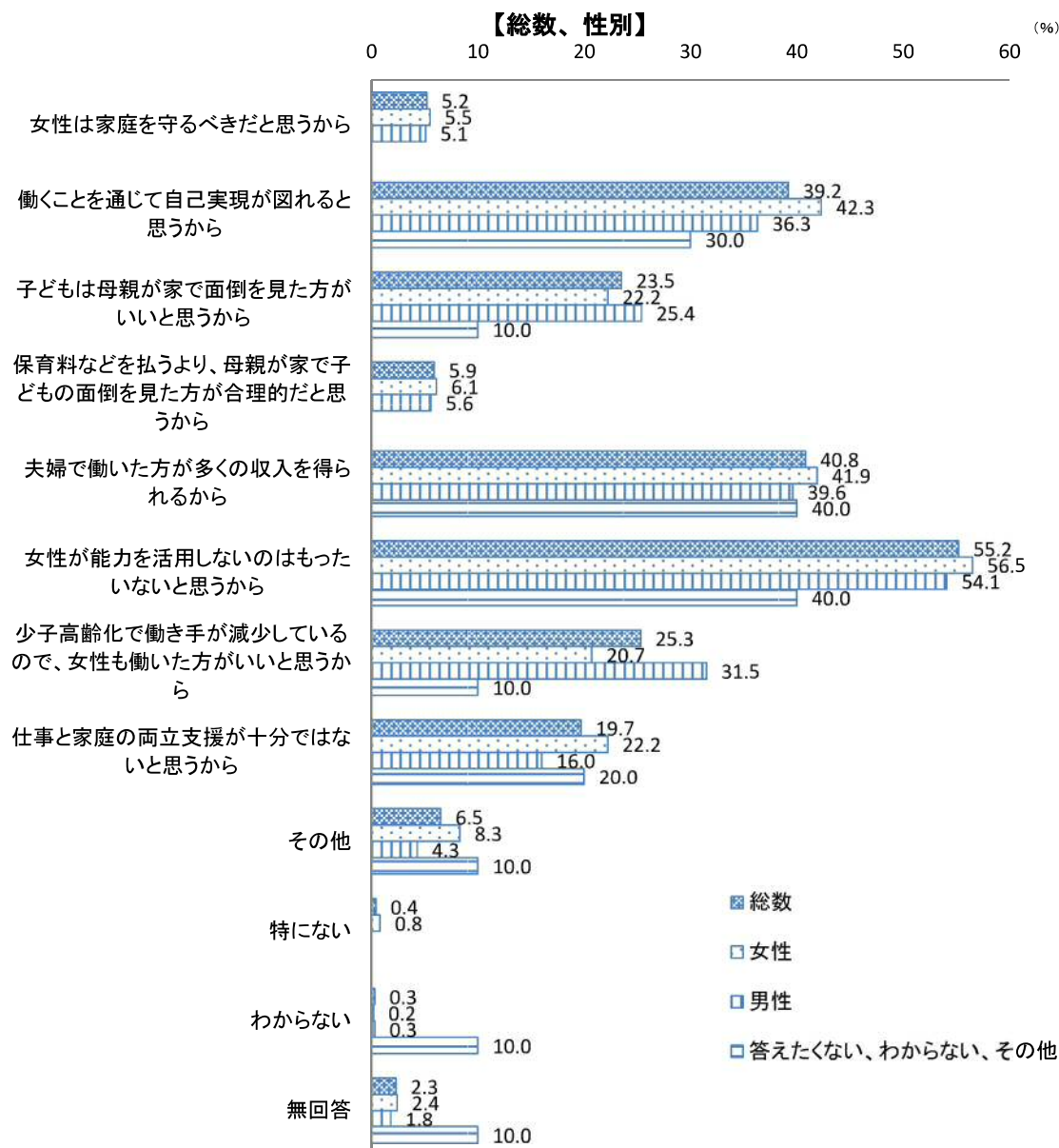
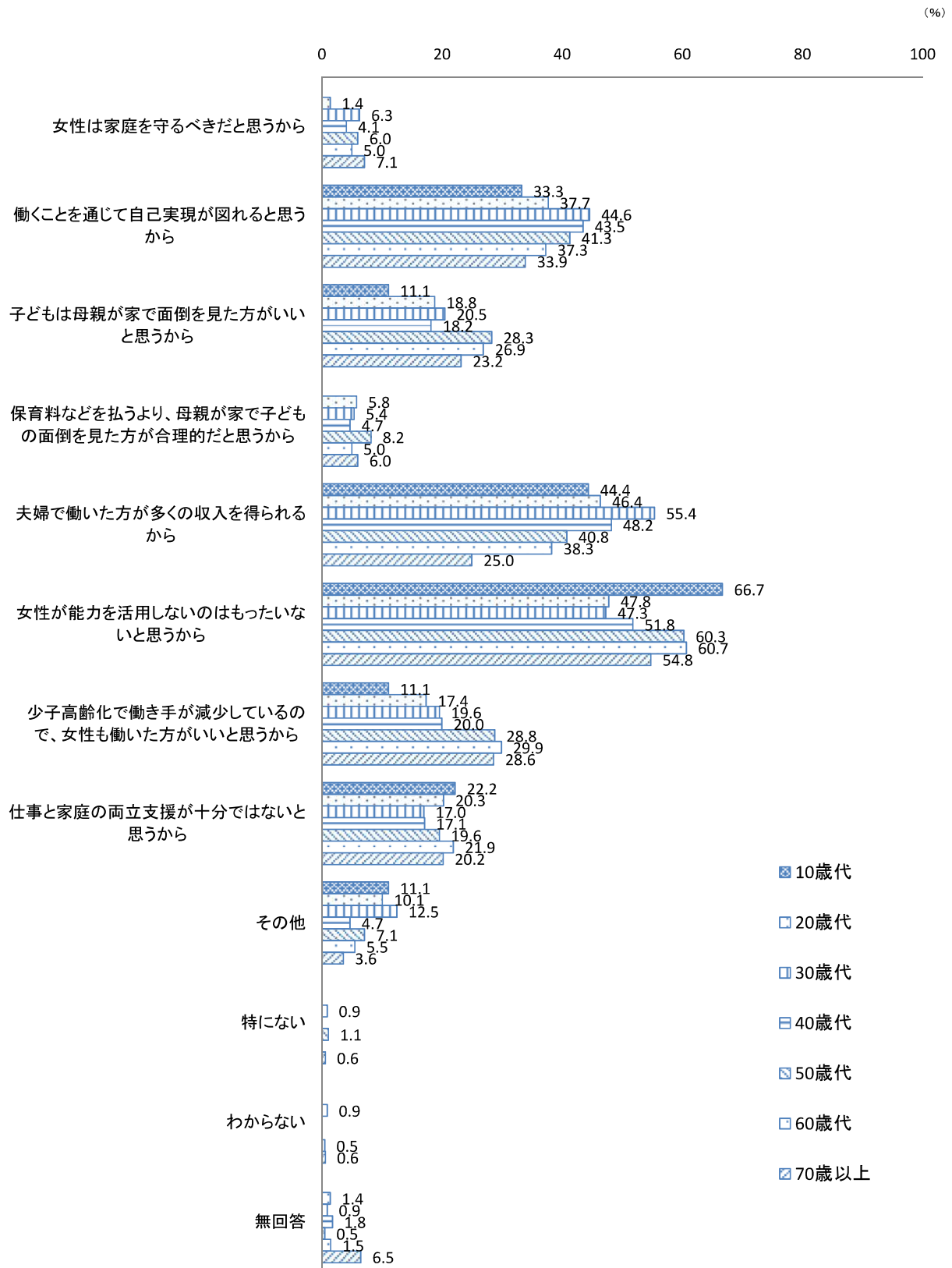


図9-6 女性が職業を持つことについて（理由②）

【年齢別】



10 男性が職業を持つことについて

「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」と回答した人の割合は87.0%と高くなっている。次いで「わからない」(4.8%)、「その他」(3.8%)の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」と回答した人の割合は、男性より女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」と回答した人の割合は、30歳代をピークに減少傾向にある。

図10-1 男性が職業を持つことについて

【総数、性別、年齢別】

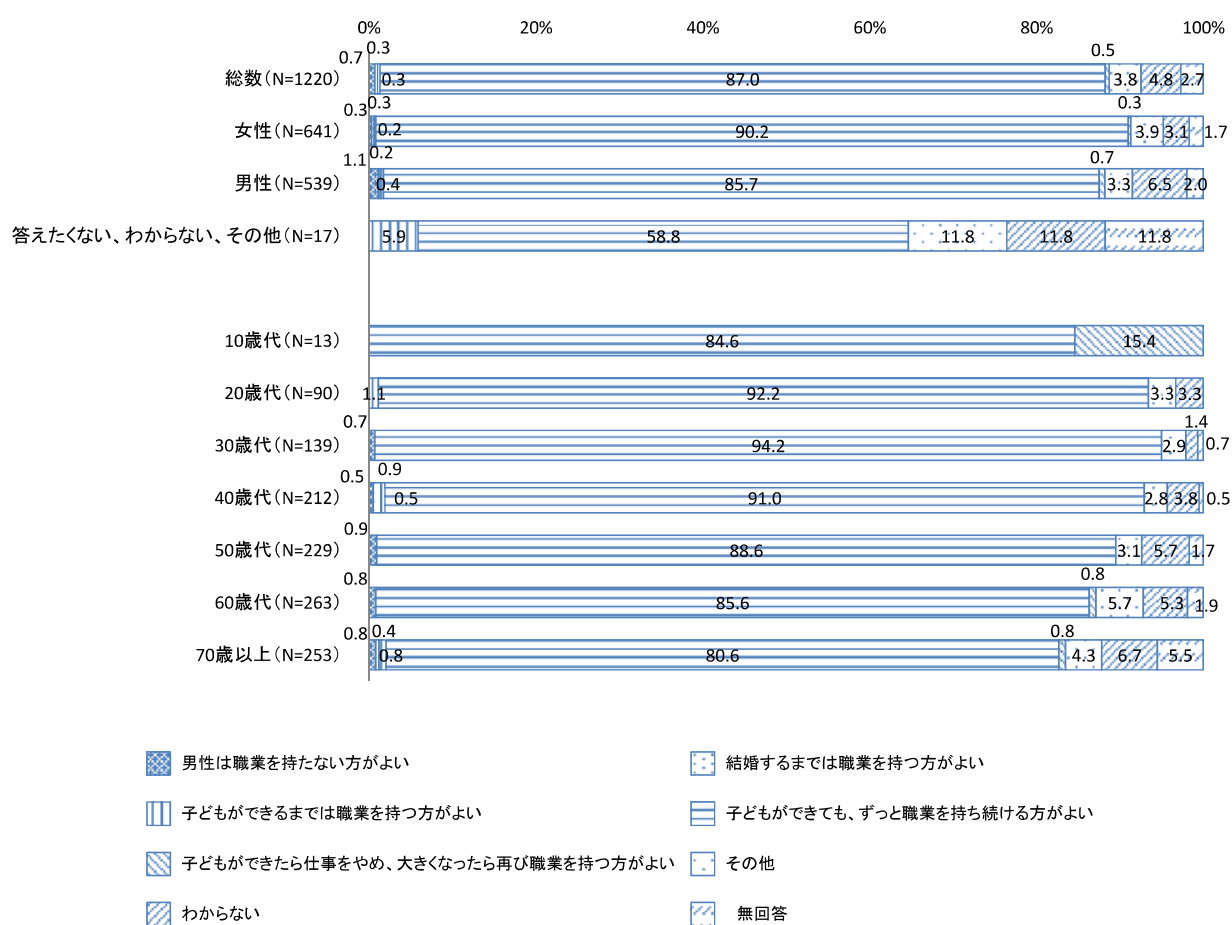


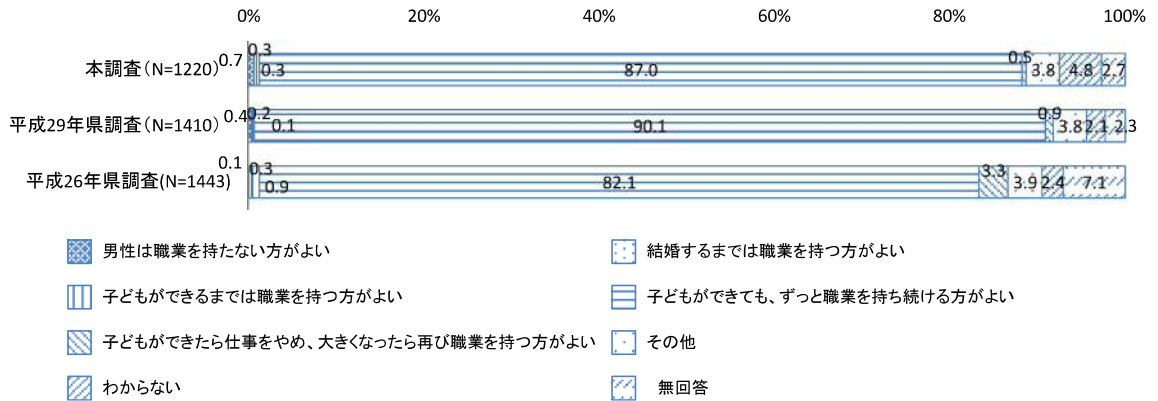
表10 男性が職業を持つことについて【総数、性別、年齢別】

	サンプル数	男性は職業を持たない方がよい	よい結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができるまでは職業を持つ方がよい	子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい	子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	その他	わからない	無回答
総数	1220 100.0	8 0.7	4 0.3	4 0.3	1061 87.0	6 0.5	46 3.8	58 4.8	33 2.7
性別	女性	641 100.0	2 0.3	2 0.3	1 0.2	578 90.2	2 0.3	25 3.9	11 1.7
	男性	539 100.0	6 1.1	1 0.2	2 0.4	462 85.7	4 0.7	18 3.3	11 2.0
	答えたくない、わからない、その他	17 100.0	-	-	1 5.9	10 58.8	-	2 11.8	2 11.8
年齢別	10歳代	13 100.0	-	-	-	11 84.6	2 15.4	-	-
	20歳代	90 100.0	-	-	1 1.1	83 92.2	-	3 3.3	-
	30歳代	139 100.0	1 0.7	-	-	131 94.2	-	4 2.9	1 0.7
	40歳代	212 100.0	1 0.5	2 0.9	1 0.5	193 91.0	-	6 2.8	1 0.5
	50歳代	229 100.0	2 0.9	-	-	203 88.6	-	7 3.1	4 1.7
	60歳代	263 100.0	2 0.8	-	-	225 85.6	2 0.8	15 5.7	5 1.9
	70歳以上	253 100.0	2 0.8	1 0.4	2 0.8	204 80.6	2 0.8	11 4.3	14 6.7

【他調査との比較】

平成29年県調査と比較すると、両調査とも「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」と回答した人の割合は高くなっている。

図10-2 男性が職業を持つことについて
【他調査との比較】



1.1 仕事を選ぶ際に重視すること

「仕事にやりがいがある」と回答した人の割合が61.5%と最も高く、次いで「勤務時間、勤務場所の条件が良い」(58.6%)、「職場の雰囲気が良い」(56.8%)の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「勤務時間、勤務場所の条件が良い」、「職場の雰囲気が良い」、「育児や介護への理解や制度が整っている」と回答した人の割合は、男性より女性の方が高くなっている。一方、「業種に将来性がある」と回答した人の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、20歳代及び40歳代では「職場の雰囲気が良い」と回答した人の割合が最も高くなっている。30歳代では「勤務時間、勤務場所の条件が良い」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図11-1 仕事を選ぶ際に重視すること

【総数、性別】

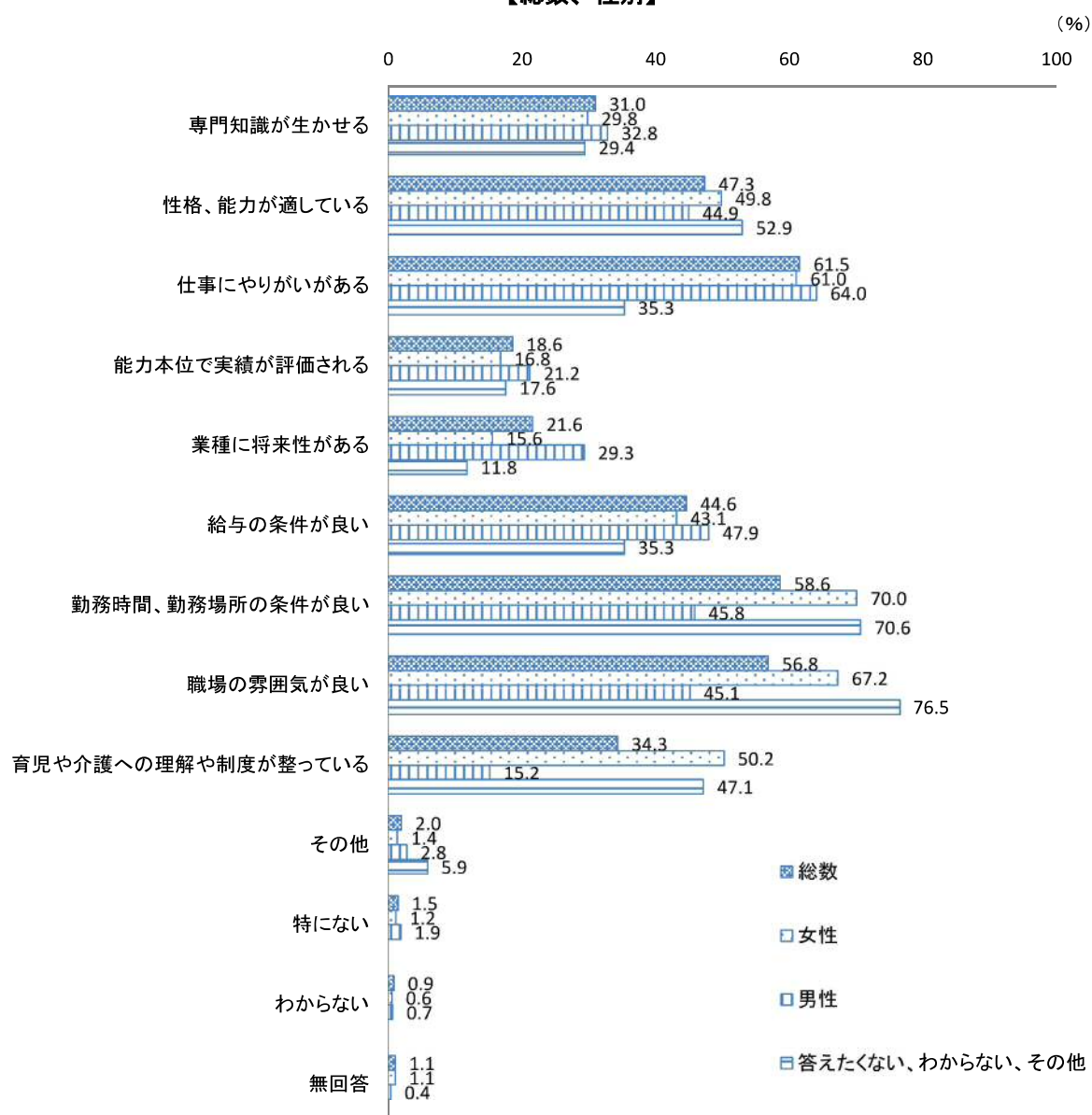
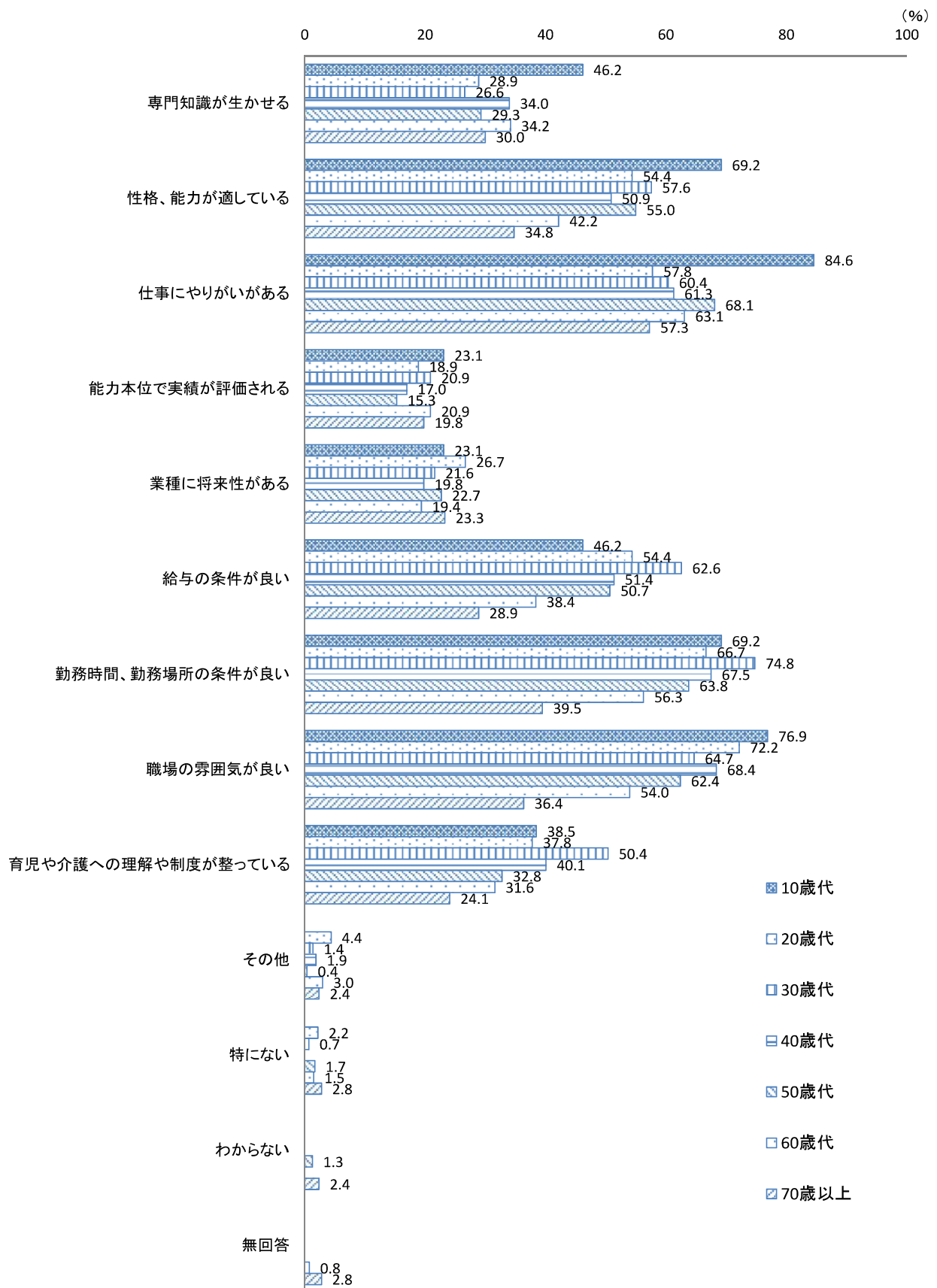


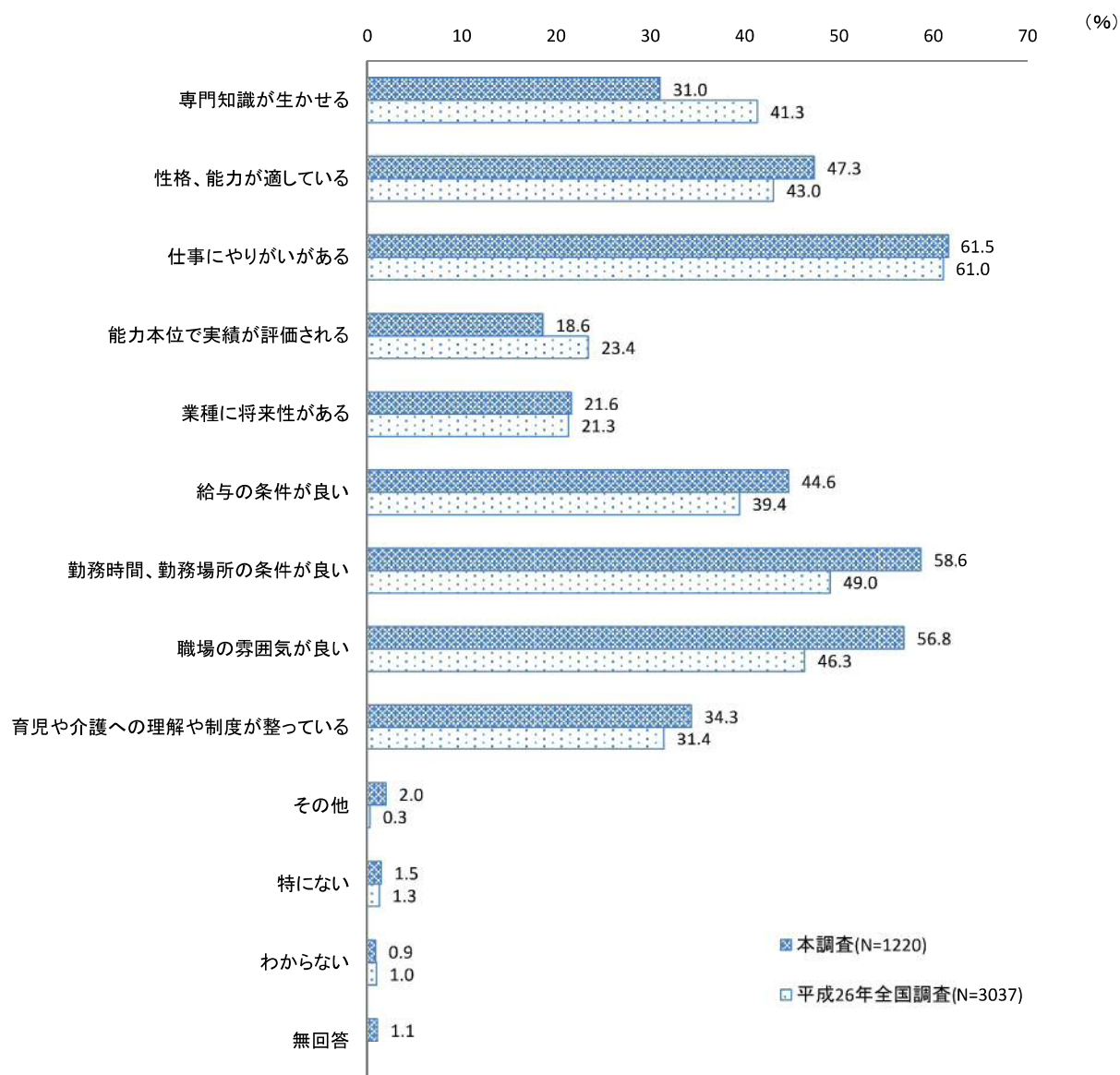
図11-2 仕事を選ぶ際に重視すること
【年齢別】



【他調査との比較】

平成26年全国調査と比較すると、「専門知識が生かせる」、「能力本位で実績が評価される」を除く全ての項目で高くなっている。

図11-3 仕事を選ぶ際に重視すること
【他調査との比較】



1.2 管理職以上に昇進することについて

「責任が重くなる」が70.1%と最も高く、次いで「能力が認められた結果である」が54.3%、「賃金が上がる」が46.8%となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「能力が認められた結果である」と回答した人の割合は、男性より女性の方が高くなっている。また、「仕事と家庭の両立が困難になる」と回答した人の割合も、男性より女性の方が高くなっている。一方、「自分自身で決められる事柄が多くなる」と回答した人の割合は、女性より男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、70歳以上を除くすべての年代で「責任が重くなる」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図12-1 管理職以上に昇進することについて

【総数、性別】

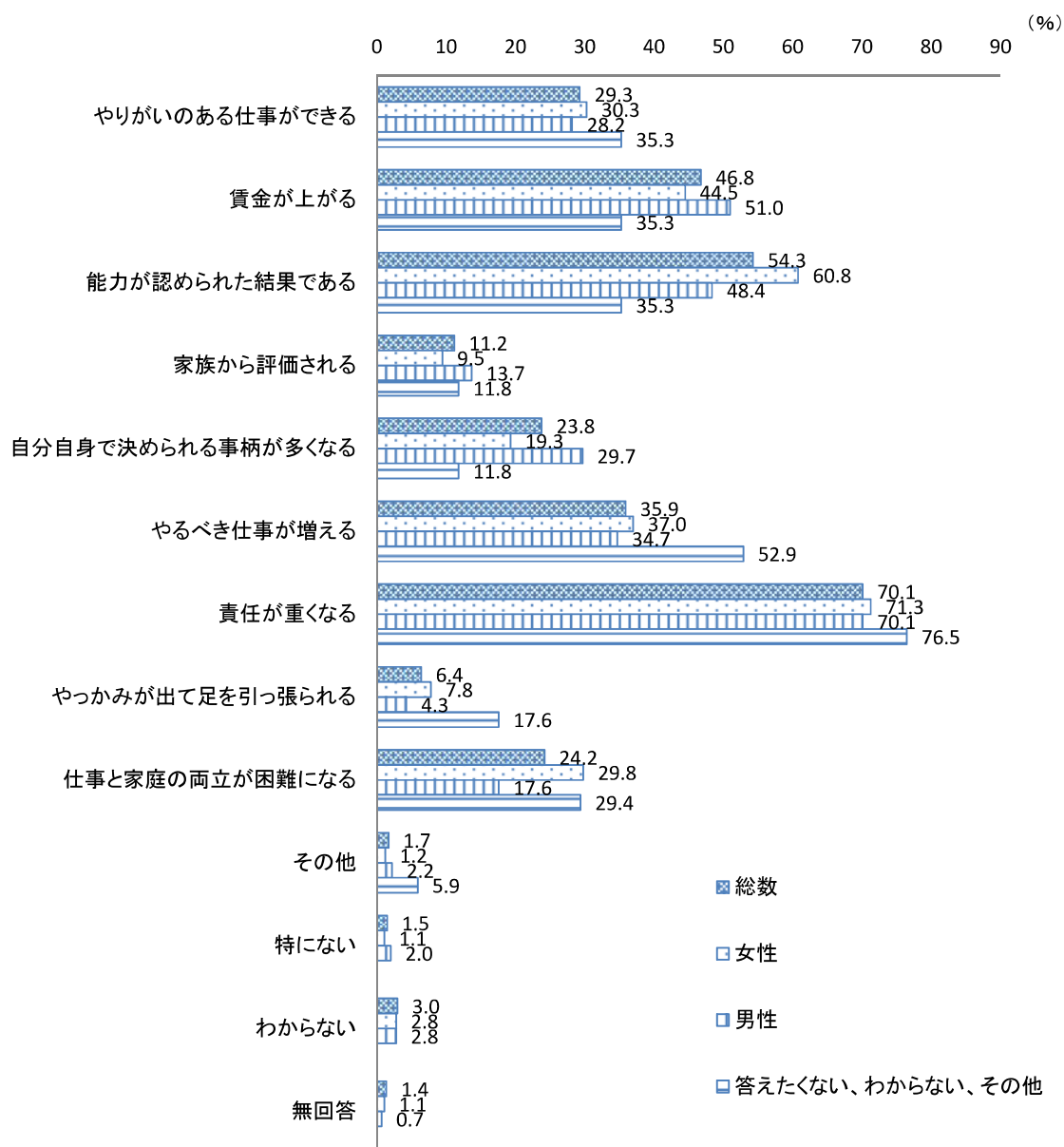
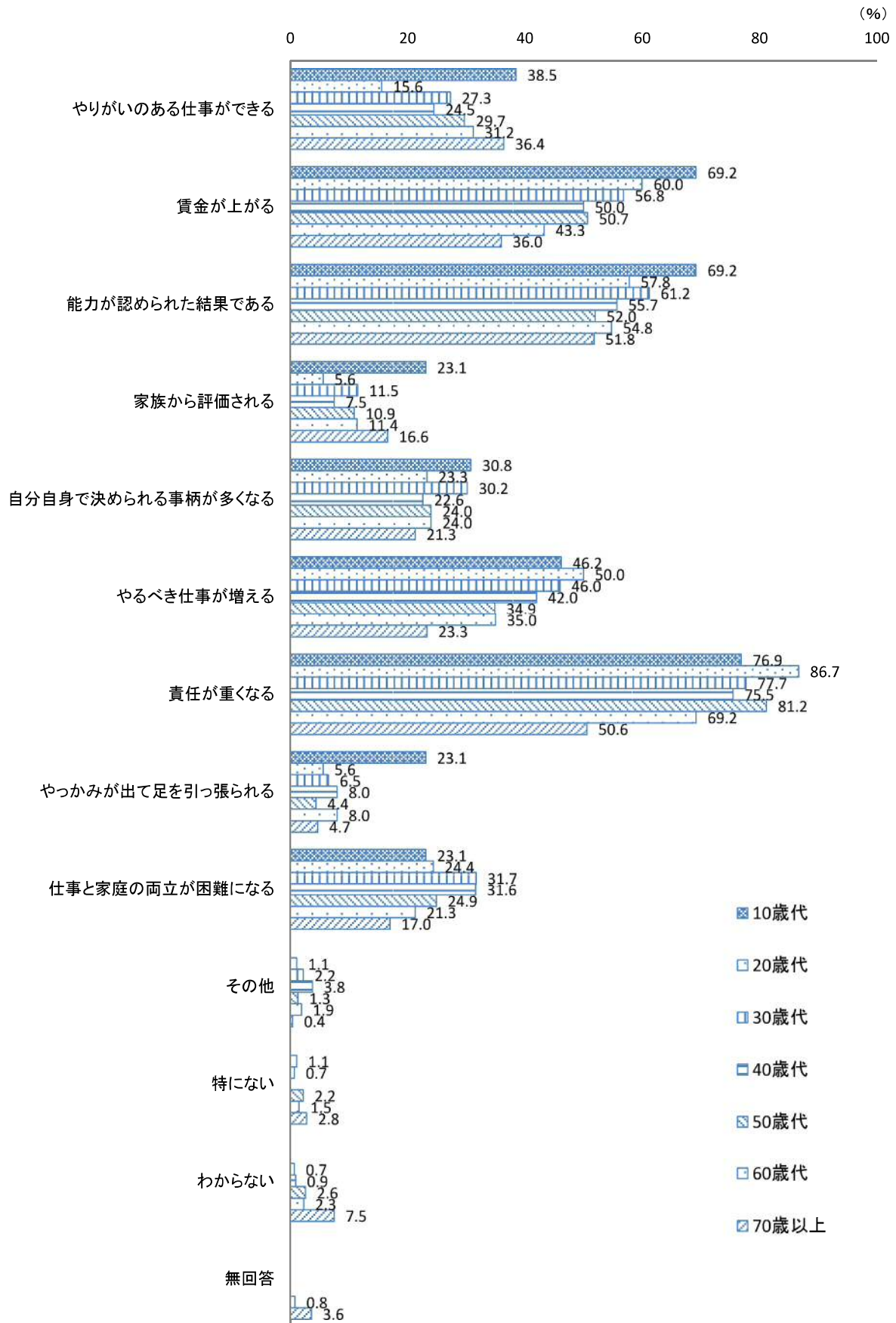


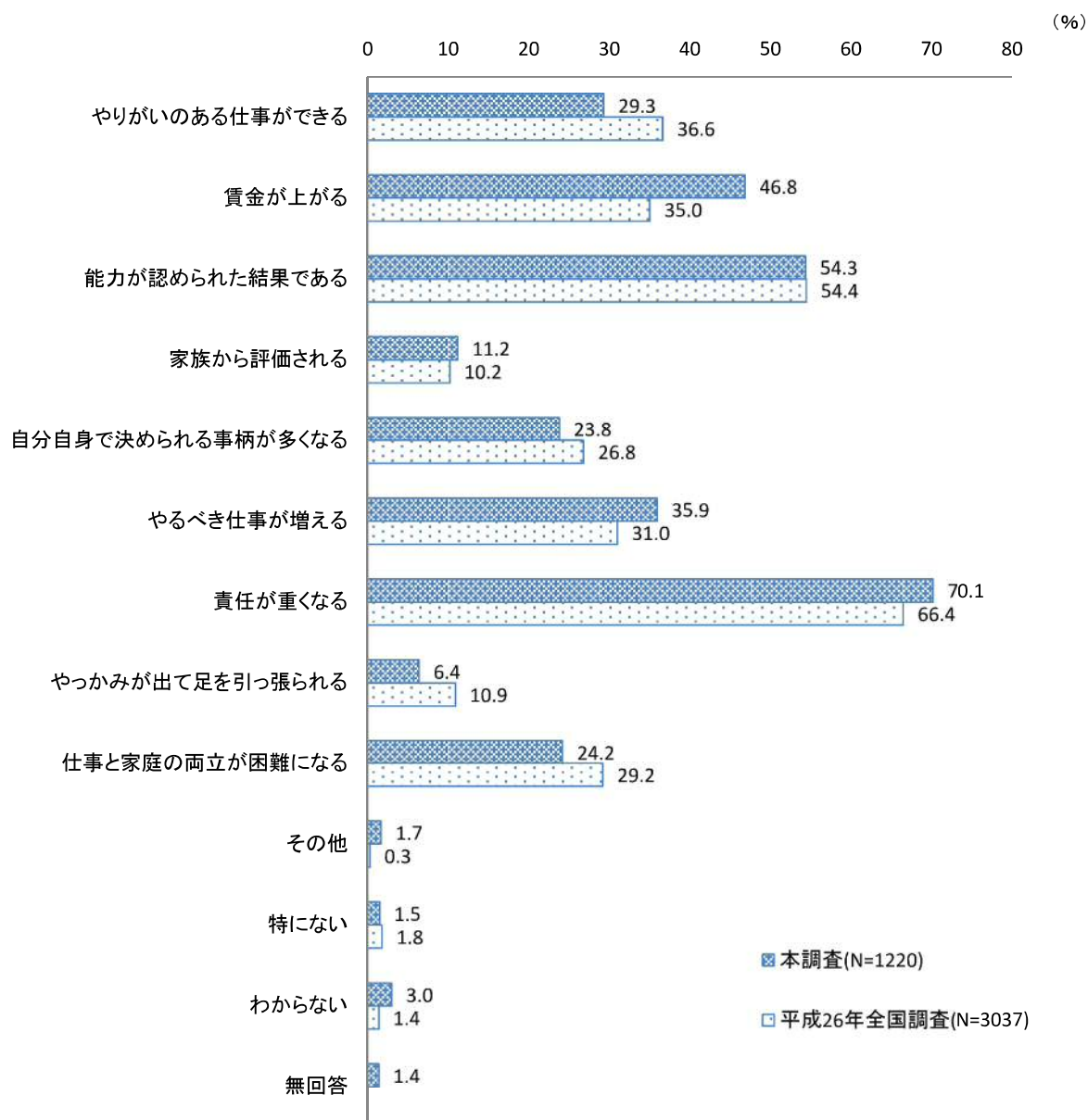
図12-2 管理職以上に昇進することについて
【年齢別】



【他調査との比較】

平成26年全国調査と比較すると、「賃金が上がる」、「やるべき仕事が増える」、「責任が重くなる」と回答した人の割合は高くなっている。

図12-3 管理職以上に昇進することについて
【他調査との比較】



1.3 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために家庭・社会・職場で必要なこと

「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が80.7%と最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」(59.4%)、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」(54.5%)の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「男性の家事参加への理解・意識改革」、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」と回答した人の割合は男性より女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、上位2位までは各年代とも共通しているが、30歳代では「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」と回答した人の割合が66.2%と3番目に高くなっている。40歳代、50歳代、70歳以上では「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」と回答した人の割合が3番目に高くなっている。

図13-1 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために家庭・社会・職場で必要なこと
【総数、性別】

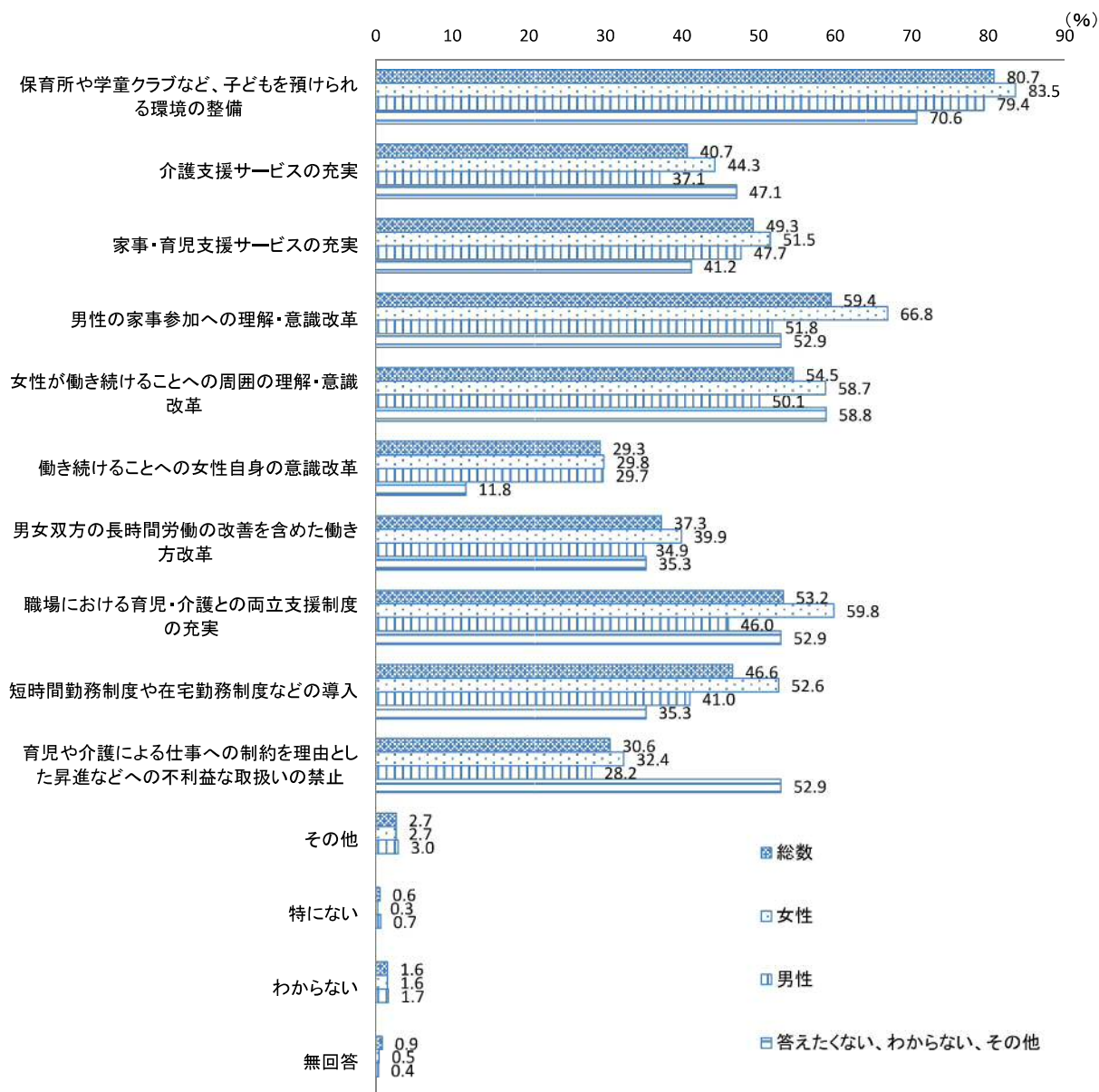
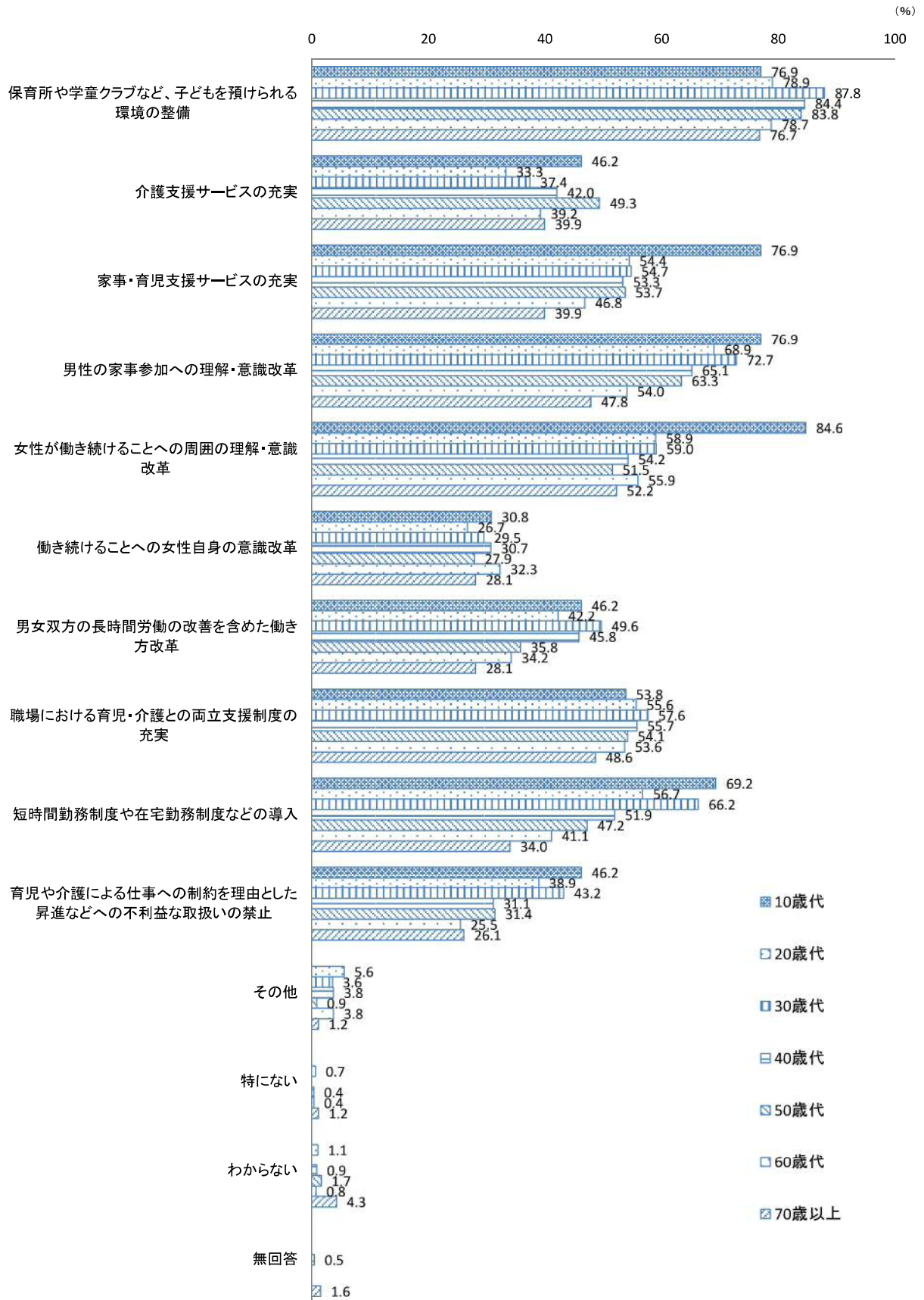


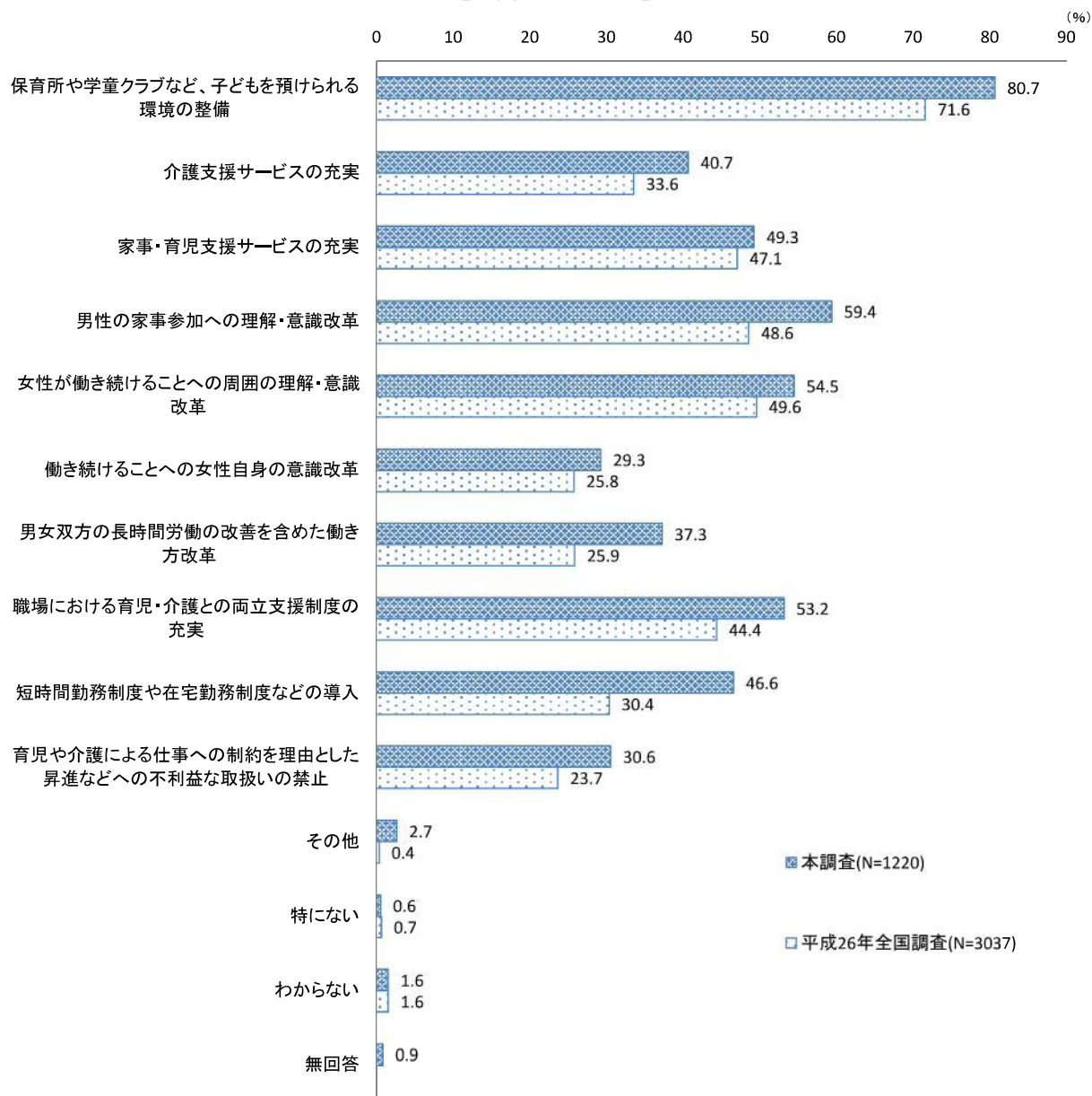
図13-2 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために家庭・社会・職場に必要なこと
【年齢別】



【他調査との比較】

平成26年全国調査と比較すると、全ての項目で高くなっている。

図13-3 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために家庭・社会・職場に必要なこと
【他調査との比較】



1.4 出産などでいったん離職した女性が再び社会で活動する仕方

「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさを重視し、正社員として再就職する」と回答した人の割合が60.3%と最も高く、次いで「これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」(54.3%)、「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」(41.5%)の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」と回答した人の割合は女性よりも男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさを重視し、正社員として再就職する」と回答した人の割合は、10歳代を除いて30歳代では73.4%と最も高くなっている。

図14-1 出産などでいったん離職した女性が再び社会で活動する仕方

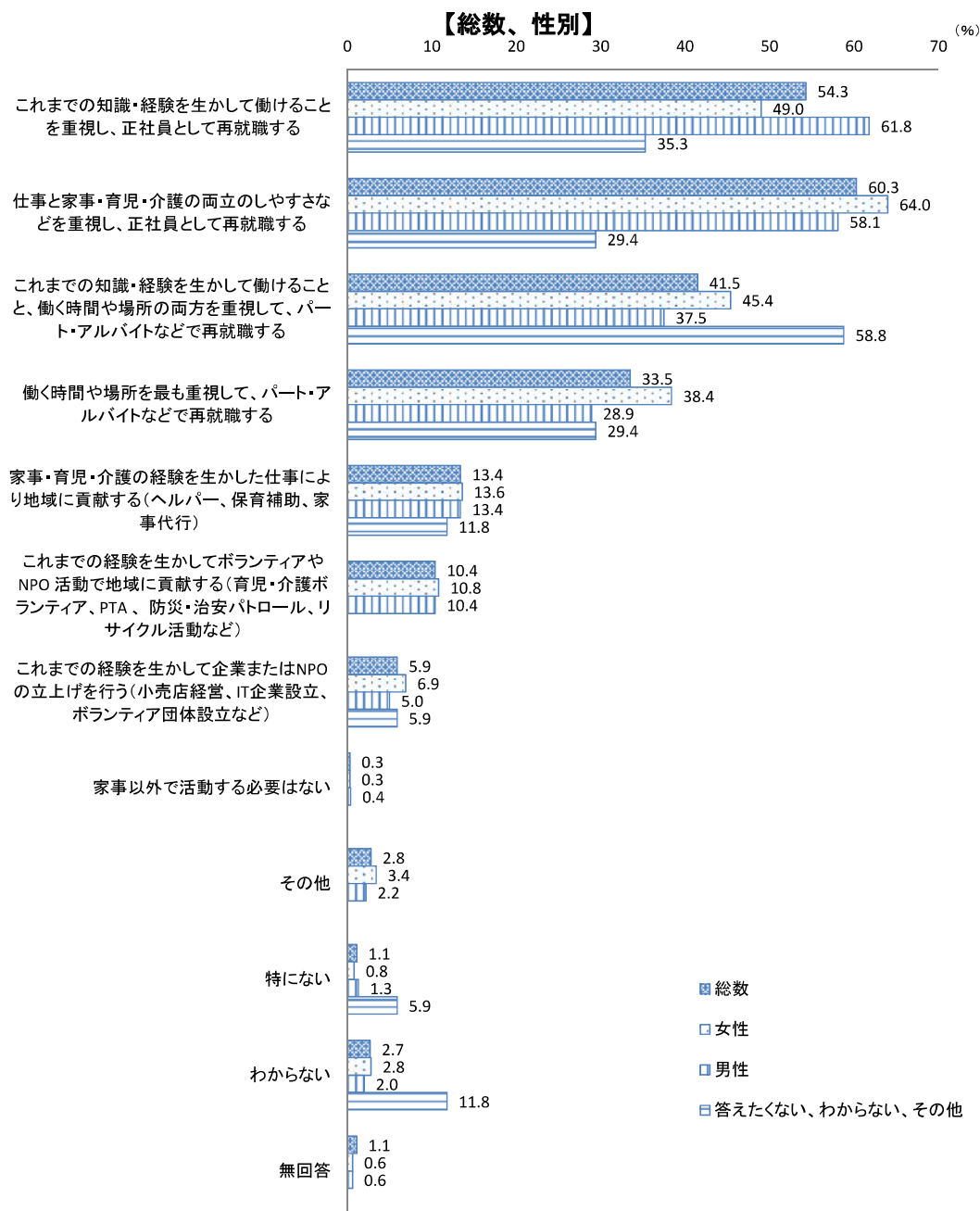
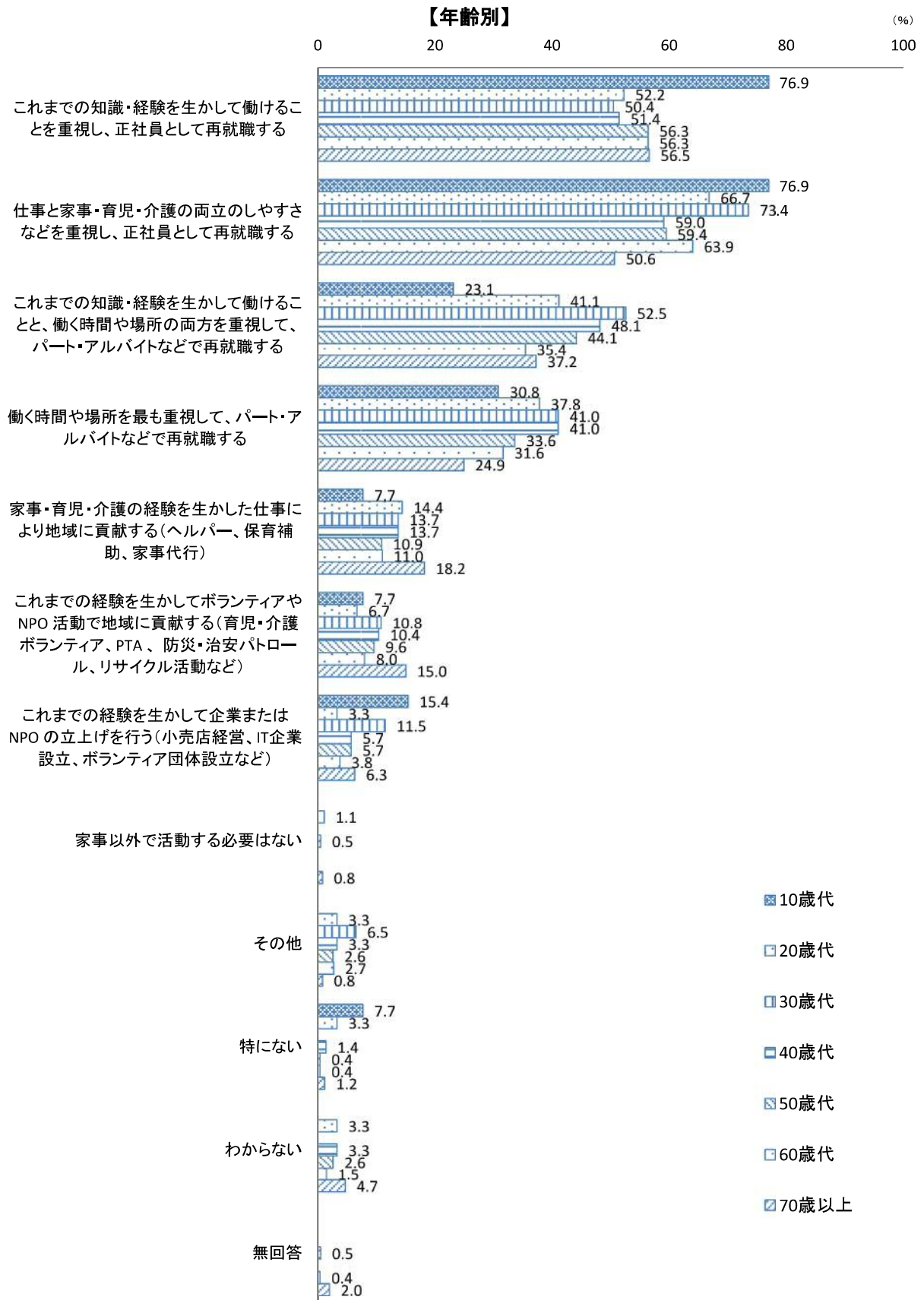


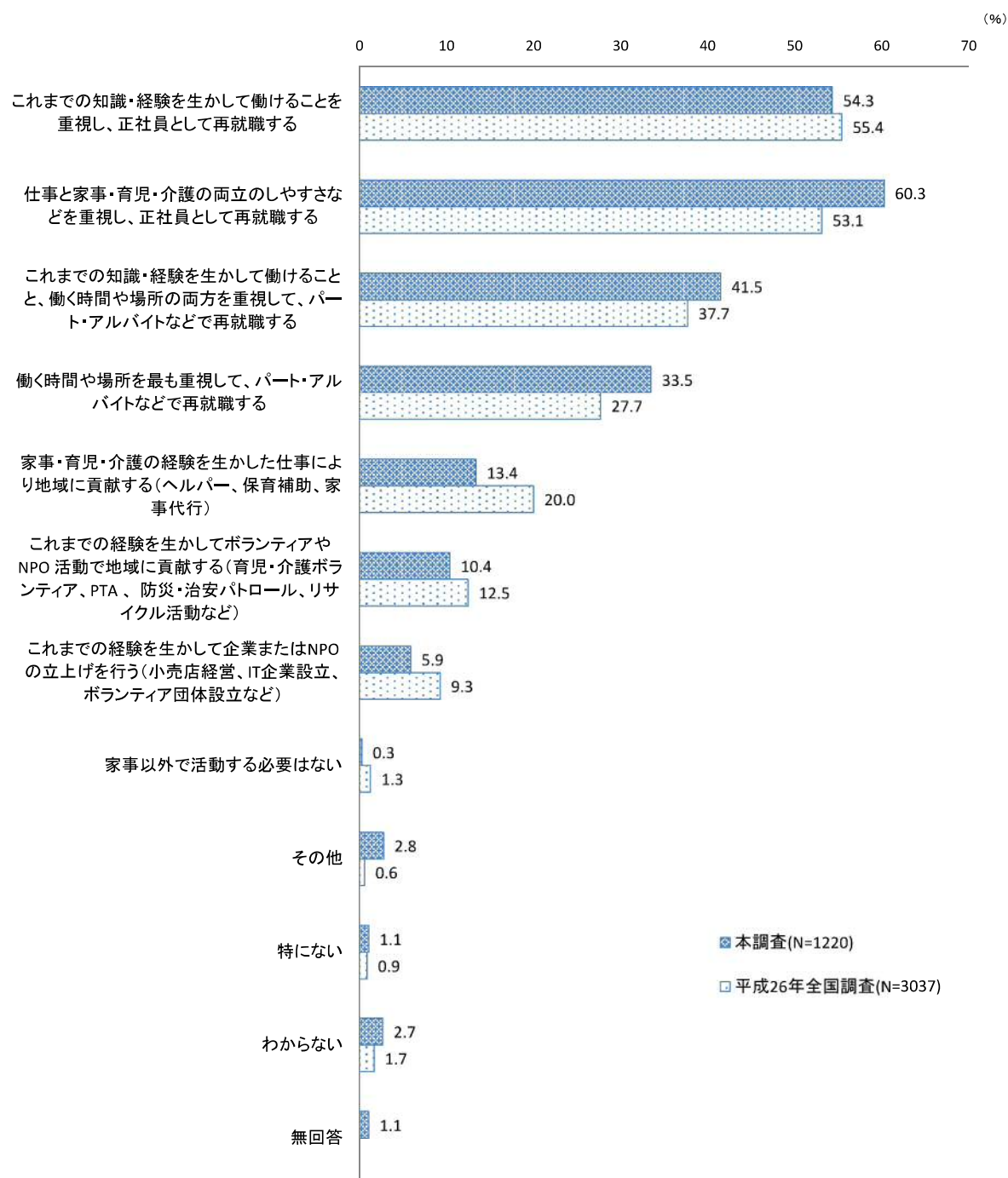
図14-2 出産などでいったん離職した女性が再び社会で活動する仕方



【他調査との比較】

平成26年全国調査と比較すると、「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさを重視し、正社員として再就職する」、「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」、「働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」の3項目で高くなっている。

図14-3 出産などでいったん離職した女性が再び社会で活動する仕方
【他調査との比較】



1.5 女性活躍推進の取組に関する情報

「特に必要な情報」

「保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）」と回答した人の割合が 63.0%と最も高く、次いで「放課後児童クラブに関する情報（場所、利用料など）」(52.6%)、「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）」(51.0%)の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「放課後児童クラブに関する情報（場所、利用料など）」、「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）」と回答した人の割合は男性より女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など）」と回答した人の割合は年齢層が若いほど、高くなる傾向がみられる。

図 15-1 女性活躍推進の取組に関する情報（特に必要な情報）

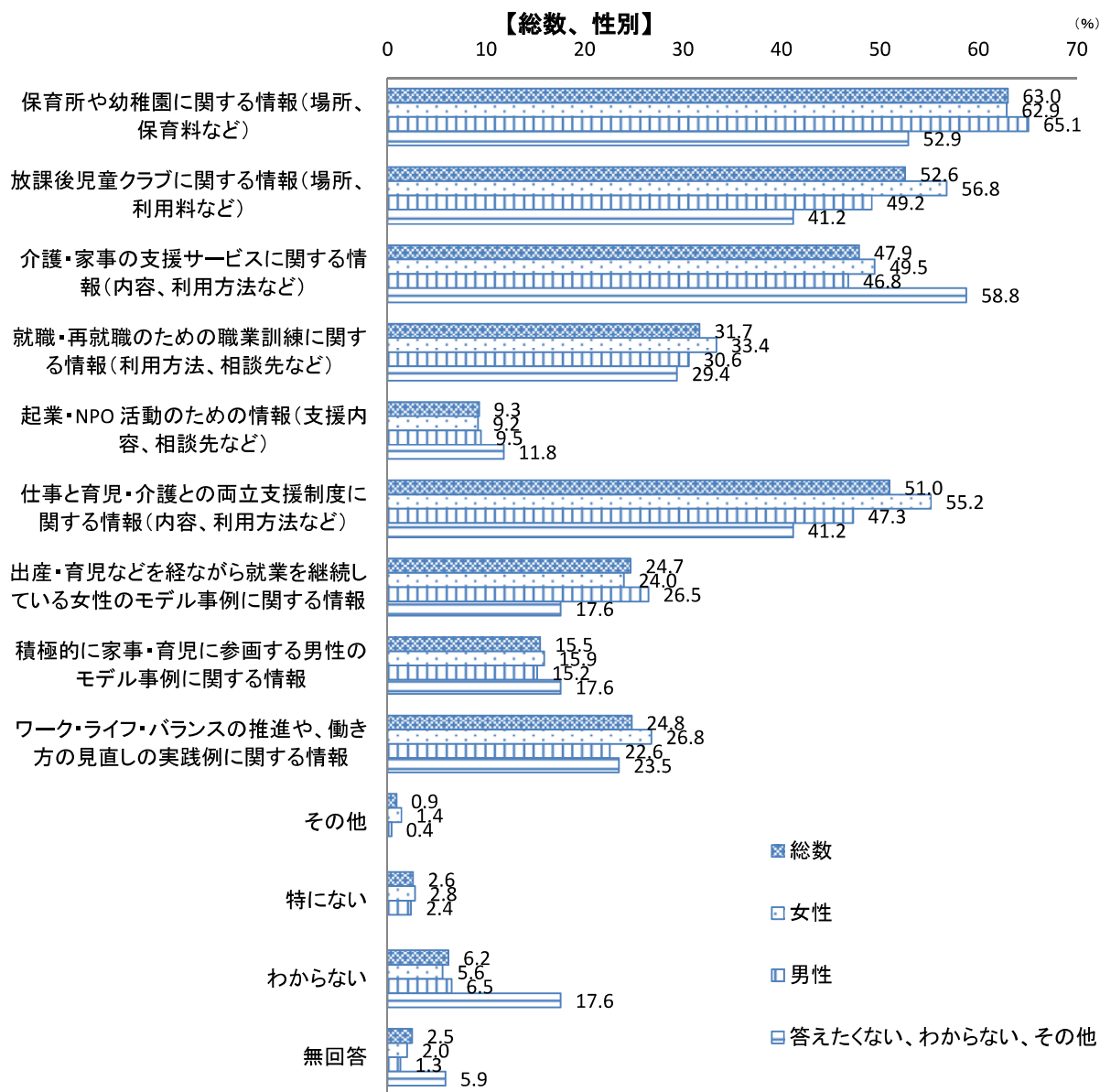
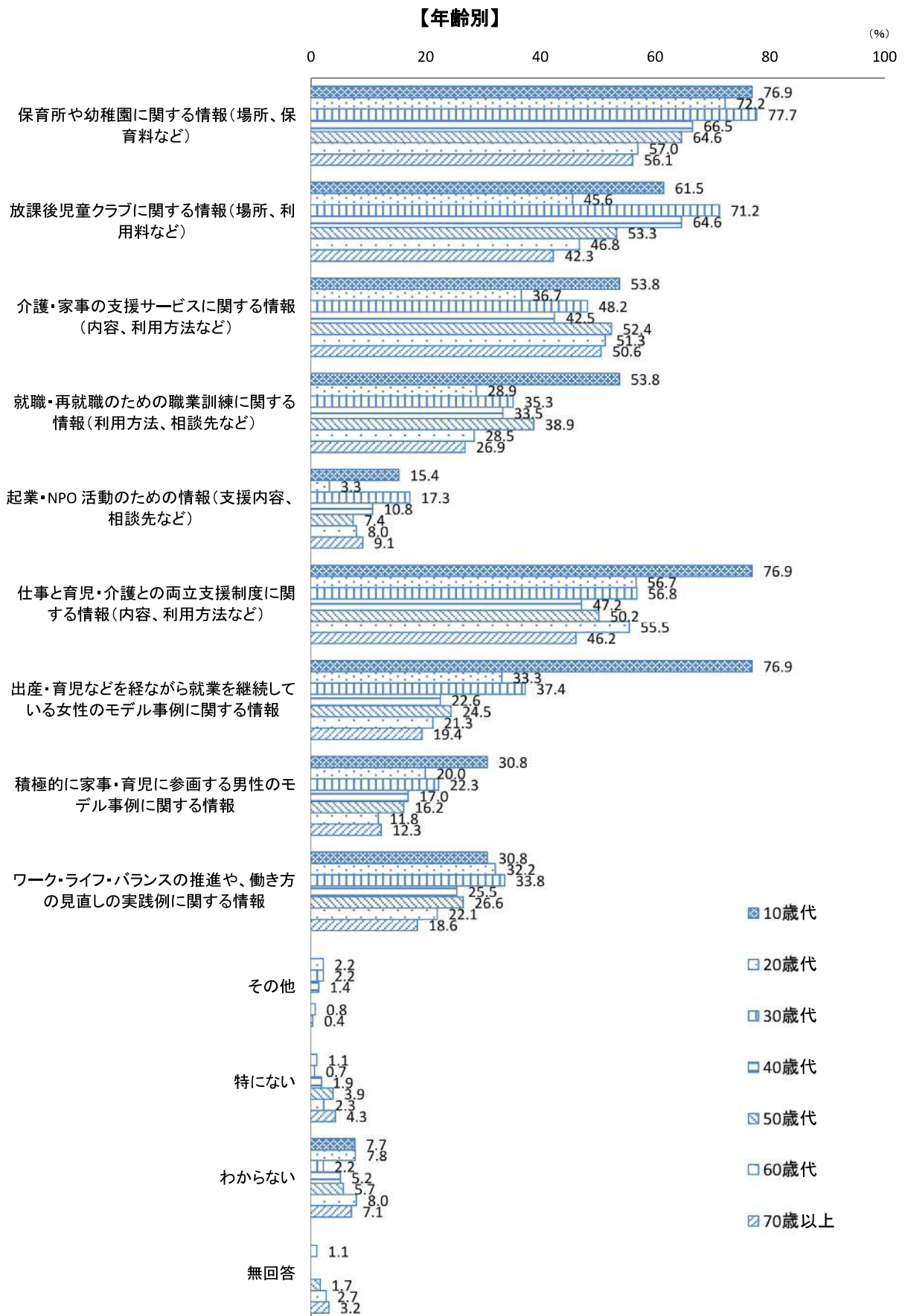


図15-2 女性活躍推進の取組に関する情報（特に必要な情報）



「情報入手の際に利用する媒体」

「Web ページ、SNS、アプリなど」と回答した人の割合が 58.4%と最も高く、次いで「新聞、雑誌」(51.4%)、「テレビ、ラジオ」(45.9%) の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「政府や地方自治体が発行する広報誌」と回答した人の割合は男性より女性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、「Web ページ、SNS、アプリなど」と回答した人の割合は、50 歳代以下で高くなっている一方で、60 歳代以上では低くなっている。また、60 歳代以上では「新聞、雑誌」、「テレビ、ラジオ」が高くなっている。

図 15-3 女性活躍推進の取組に関する情報（情報入手の際に利用する媒体）

【総数、性別】

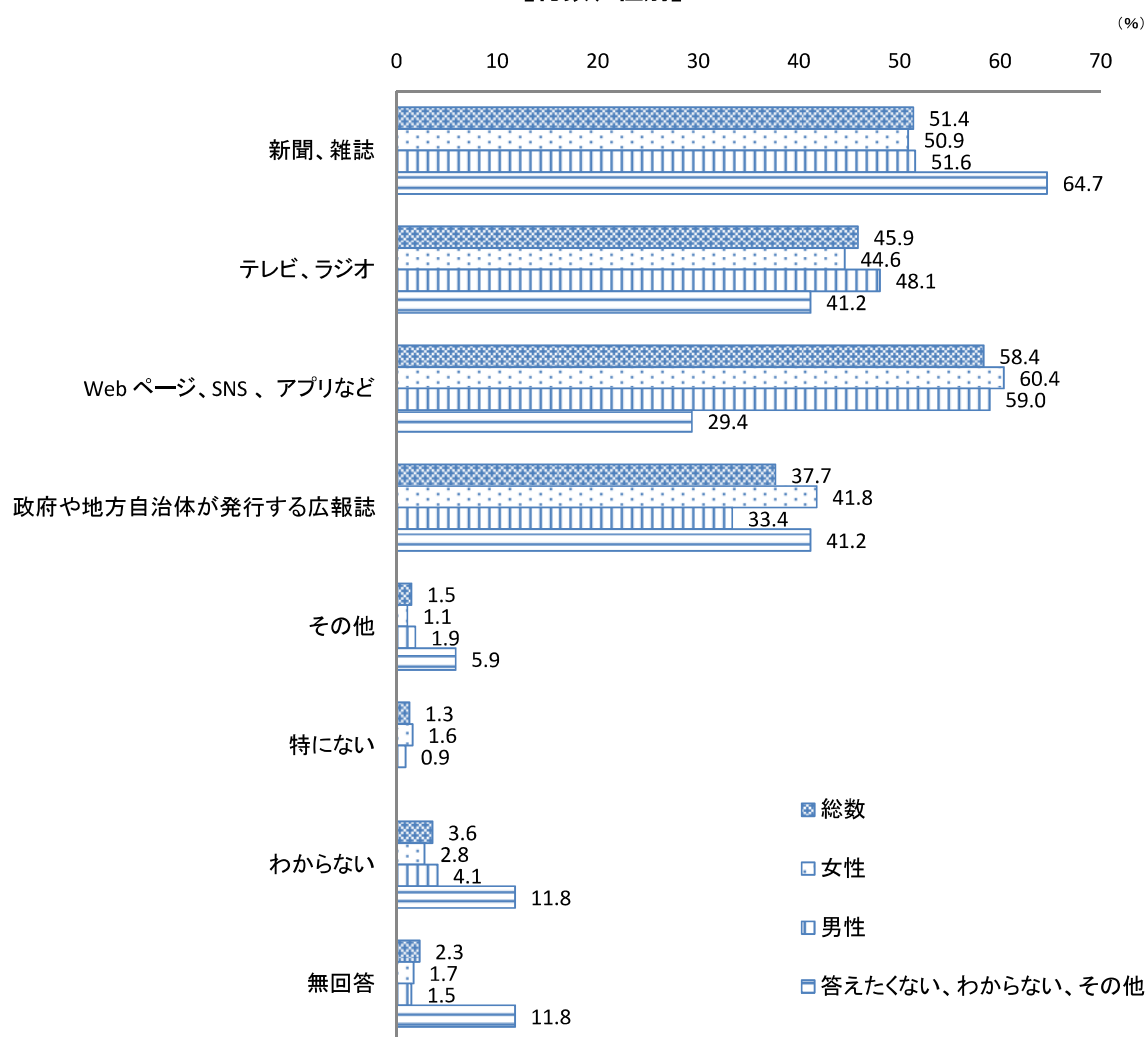
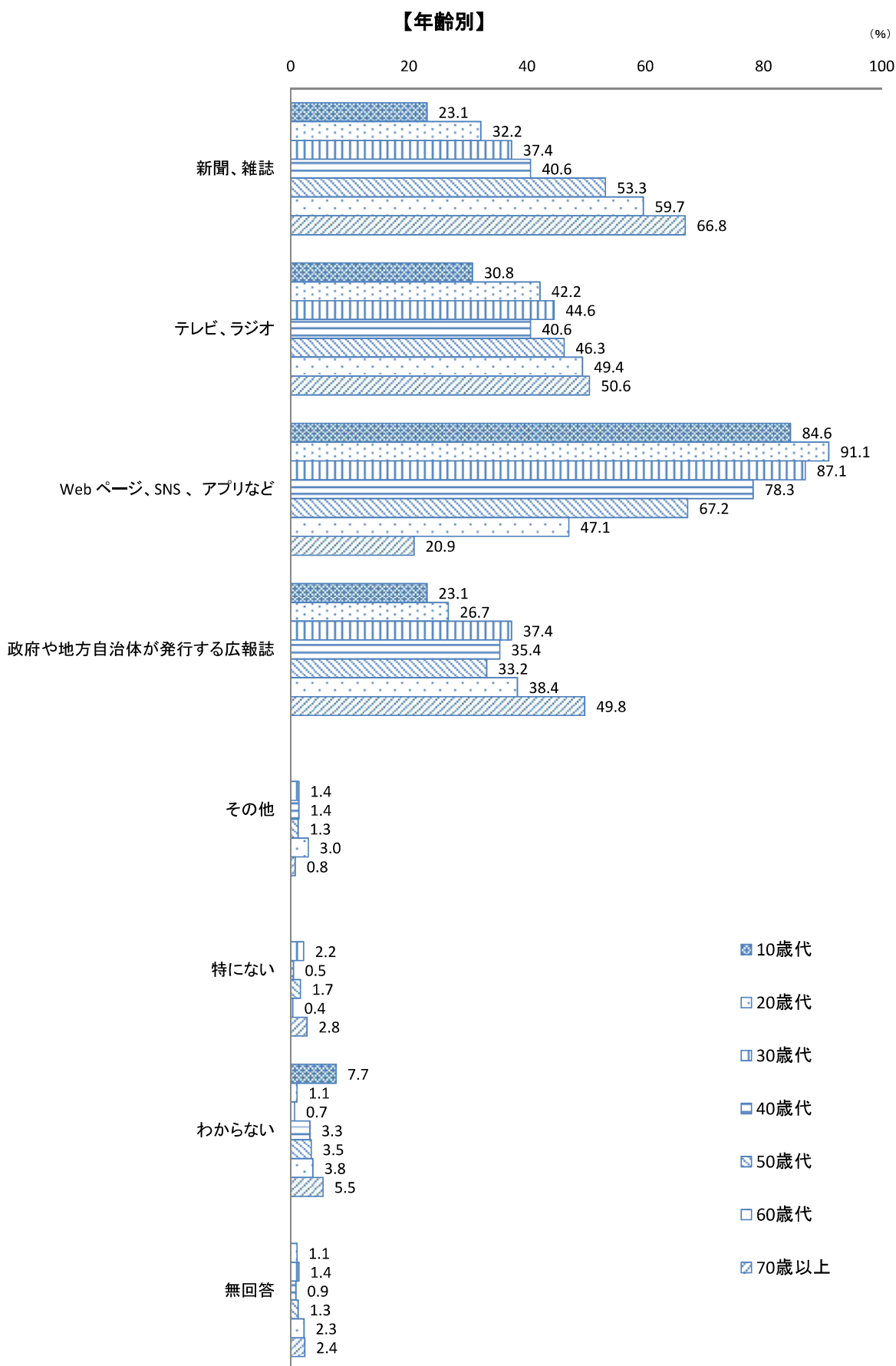


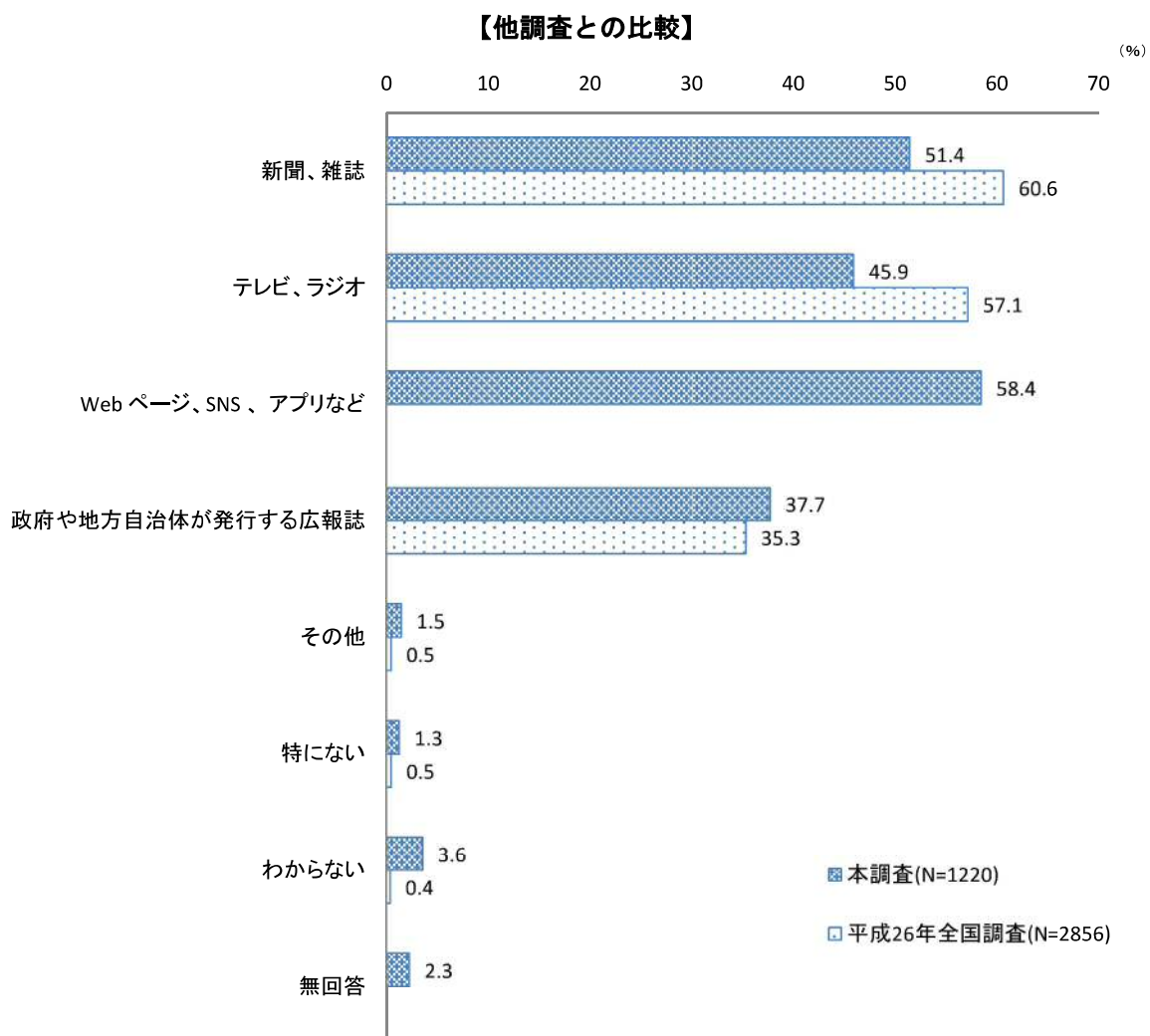
図15-4 女性活躍推進の取組に関する情報（情報入手の際に利用する媒体）



【他調査との比較】

平成26年全国調査と比較すると、「新聞、雑誌」、「テレビ、ラジオ」が低くなっている。なお、「Webページ、SNS、アプリなど」は平成26年全国調査にはない項目である。

図15-5 女性活躍推進の取組に関する情報（情報入手の際に利用する媒体）



1.6 働く女性が更に活躍するために必要な取組

A 愛知県

「子育て環境（保育所等）を整備する」と回答した人の割合が63.5%と最も高く、次いで「女性の再就職支援を行う」（46.1%）、「県が率先して、女性の活躍促進に取り組む」（29.6%）の順となっている。

【性・年齢別】

性別に見ると、「子育て環境（保育所等）を整備する」、「女性の再就職支援を行う」と回答した人の割合は男性よりも女性の方が高くなっている。また、「女性活躍に取り組む企業の表彰及びPRをする」と回答した人の割合は女性よりも男性の方が高くなっている。

年齢別に見ると、20歳代、30歳代は「子育て環境（保育所等）を整備する」と回答した人の割合が特に高くなっている。

図16-1 働く女性が更に活躍するために必要な取組（A 愛知県）

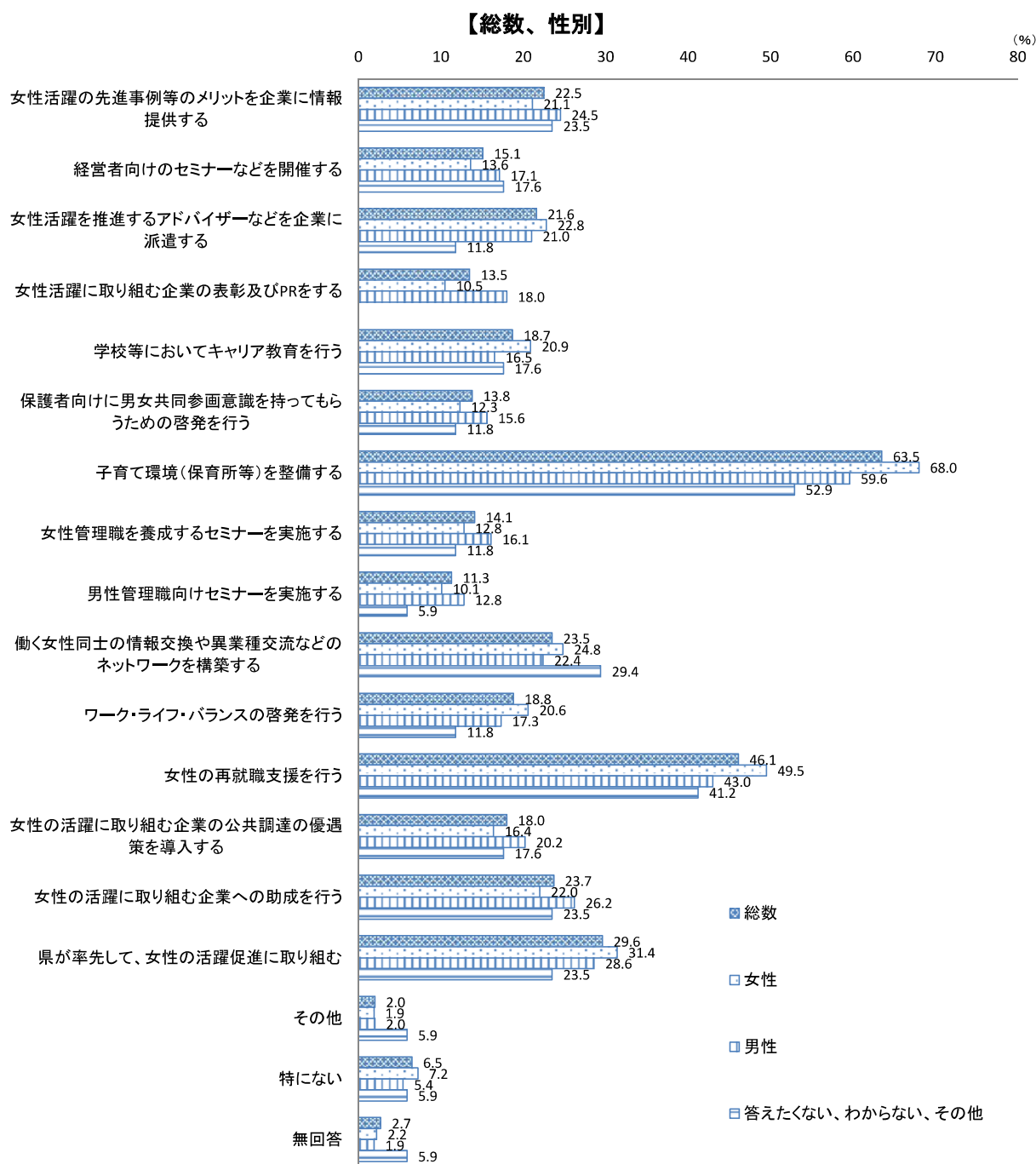


図16-2 働く女性が更に活躍するために必要な取組（A 愛知県）

